

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年二月度 入選句 (投稿総数千七百四十七句・小中学投句数千百九十二句)

特選

ひなまつりははとくせいのおちらしずし 大垣市 伊藤 優我(小三)

年に一度のひなまつりの日のごちそうが、お母さんの特製ちらしずしなのでしよう。その日を
楽しみにしている想いや、家族みんなでちらしずしを囲んでいる様子が目に浮かびます。
手づくりの温かさや家族のぬくもりが句全体に表現されていて、読み手もつい笑顔になりま
す。平仮名表記が優しさをふくらませているすてきな一句です。

おもちゃき三ついつきにふくらんだ 大垣市 イトウ あやめ(小二)

かたいおもちをうら返しながら、少しずつこげ目がついていく様子をじっと見つめているので
しよう。どれが一番早くふくらむかと目をはなせないでいる姿も目に浮かびます。「三ついつき
に」という言葉が、句に勢いをつけています。おもちといっしょに作者の楽しさも大きくふくらみ
ましたね。お正月ならではの明るい一句です。

じいちゃんのはくさいすこしせがのびて 大垣市 柘植 大和(小五)

おじいちゃんが作るいろいろな野菜が少しずつ大きくなっていくのを心待ちにしているのでし
ょう。たびたび畑へ行き、野菜とお話している様子が目に浮かびます。だから、「すこしせがのび
て」を見逃さなかったんですね。大きく育ったはくさいは、夕食のお鍋の中で家族みんなを温め
たのでしょうか。ぬくもりがあふれる一句です。

秀逸

はつもうで今年は大きちでなかった 大垣市 すぎうら ひなた(小二)

年賀状とどいたあいて顔うかぶ 愛知県岡崎市 成瀬 葵(小四)

霜ばしらかたいラップで草つつむ 美濃加茂市 長谷川 実祐(中二)

みのむしか寝ている僕に父は言う 美濃加茂市 古賀 航成(中二)

具が多い母の作った恵方巻 美濃加茂市 藤吉 楓(中二)

ゆきだるまいちにちだけのおともだち 大垣市 まぶち けい(小一)

冬にしか会えない友だち雪だるま 大垣市 立川 りん(小三)

うめの花風におこされ目をさます 大垣市 炭竈 凜奈(小三)

菜の花のおひたし香る一品だ 大垣市 大橋 佑香(小五)

かれはたちかぜといっしょにおにごっこ 大垣市 ぬのめ くれは(小一)

入選

かきぞめが上手に書けて金しようだ 大垣市 まつ原 夏ほ(小二)
 白い雪ぼくの足あとついてくる 大垣市 小川 たいき(小二)
 スケートでクルッと回る練習だ 大垣市 伊藤 ゆい菜(小四)
 かどまつやげんかんにおくおもてなし 大垣市 いわさき あやか(小四)
 しんねんはいもうとたちとかるたとり 大垣市 西山 友菜(小四)
 味つけをしながらつまむあげ花もち 大垣市 西本 多恵(小四)
 北風に背中押されて下校する 美濃加茂市 嶋田 健将(中二)
 寒い日も家事をしている母がいる 美濃加茂市 中満 佳菜子(中二)
 雪だるま顔芸しながらとけていく 美濃加茂市 工藤 大輝(中二)
 節分で自分の弱さ吹き飛ばす 美濃加茂市 岩井 ののか(中二)

入選

初雪はいつもと違う帰り道 美濃加茂市 山口 裕右奈(中二)
 雪が降る僕の思い出積っていく 美濃加茂市 永田 凌雅(中二)
 ひな人形わたしも聞かせてふえだいこ 大垣市 松岡 優奈(小三)
 むかい合いわたしとにてるおひなさま 大垣市 山村 咲絢(小三)
 つくしんぼぐんぐんのびる元気な子 大垣市 奥田 真央(小三)
 さむいふゆママのてにぎりポツカポカ 大垣市 川股 悠月(小三)
 雲だるまバケツのぼうしプレゼント 大垣市 森本 彩乃(小三)
 かぜたちがさくらをだいてまいあがる 大垣市 志知 正基(小五)
 冬枯だ新しい実を夢に見る 大垣市 富岡 香保(小五)
 ゲレンデの斜面に向かいダイビング 美濃加茂市 長谷川 修平(中二)

選者吟

パンジーの目覚ましがり土の声

佐知子